

昨年の県内観光施設等を訪れた観光客は1億4千万人。前年に比べて約8百万人増加しました。ディズニーランドを抱える東葛地域は凡そ4千7百万人、幕張メッセを持つ千葉地域は2千2百万人、成田空港・新勝寺のある印旛地域1千7百万人、鴨川・白浜を含む安房地域は1千4百万人、アクアライン・マザー牧場・アカデミアパークを持つ君津地域は1千3百万人と県内の5地域で80%を占めています。

その内訳を見ますと、ディズニーランドを中心とした遊園地客は14%増加、一般観光客を含めると凡そ6千万人、次に多い観光客は神社仏閣・文化財遺跡見学者が3千万人弱と多い。

神社仏閣・旧跡・旧街道町並みに観光客が押し寄せています。ゴルフ・花見・海水浴も増加して、意外に釣り・キャンプ・ハイキングは減少している。(※13年のデータです。念のため)

君津地域だけ比較すると、木更津700万人、富津310万人、君津260万人、袖ヶ浦76万人、合せて凡そ1,346万人であります。

安房地域の鴨川300万人、館山160万人と比較すれば木更津はダントツに多いのになぜ地価が下落し商業が衰退しているのか。

数字的には不思議な現象であり、単純に考えれば新流入需要者のニーズに合わせられなかった、新しい時代を迎える努力を怠ったからとしか思えないのです。その点、君津は柔軟であり古い体質が少なく新しい町であった様です。それにしても君津地域への入込み人口1,350万人、定住人口の凡そ40倍。私達は果たしてその経済効果の恩恵を受けているのだろうか。入込み人口が40倍なら、経済効果2倍くらいはあるべきであります。まだまだ切実な努力が不足していると思います。むざむざと流出させてしまわないタメにも。